

特集 みんなで知ろう！

多文化共生



◎問い合わせ 企画課 企画係 ☎37-0102

～多文化共生とは～

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、
対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと

日本における外国人住民の現状

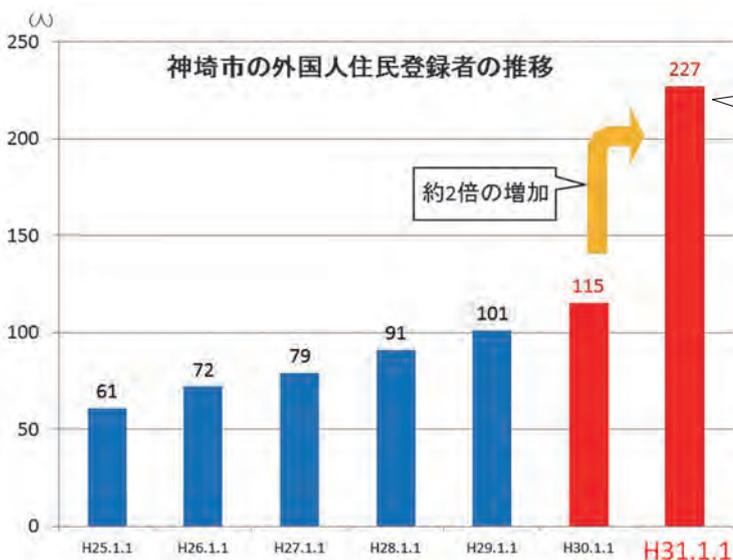
近年、全国的に少子高齢化などの影響による人手不足を補うため、外国人労働者を積極的に受け入れていく傾向にあります。平成30年12月末の在留外国人数は、273万1,093人で、前年12月末に比べ16万9,245人(6.6%)増加で、過去最高となっています。



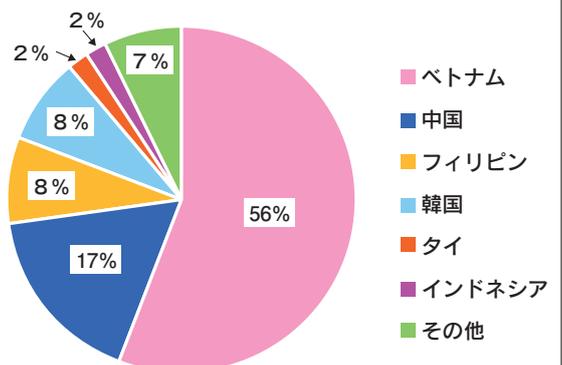
神崎市で暮らす外国人住民

市内でも技能実習生などの受け入れが増えたため外国人住民の増加傾向が見られ、昨年(平成30年1月1日時点)の市内外国人在住者115人に対して、本年(平成31年1月1日時点)の市内外国人在住者は227人となり、1年間で約2倍に増加しています。

国籍の割合はベトナム出身者が半数を超えていますが、その他にも様々な国から来日された方が在住し、日本人住民と外国人住民の皆さんが共に暮らしやすいまちを目指した取り組みが必要となっています。



神崎市の外国人住民登録者の国籍割合 (H31.1.1)





神崎市は、地域日本語教室事業に取り組んでいます！

市内の外国人在住者が、日本での生活を円滑に行うために必要な日本語コミュニケーション能力の向上を図るため、神崎市は平成31年1月に文化庁の支援事業である「地域日本語教育スタートアッププログラム」へ申請を行い、平成31年4月に正式採択されました。

このプログラムは、生活者としての外国人を対象とした日本語教室を開催するため、地方公共団体に対し、専門家を派遣することで日本語教室を支援・学習環境を整備し、日本語教育の推進を図ることを目的としています。平成31年4月～令和4年3月までの3年間を事業期間とし、今年度が1年目となります。

地域日本語教室とは？

地域日本語教室とは、外国人の方が「やさしい日本語」を使い、ゴミの出し方や自転車のマナーなどの日本の習慣を学んだり、情報交換等を行う教室です。

例えば、外国ではゴミの分別が不要な地域があります。日本人にとって当たり前でも、外国人の方には理由が理解できなかったり、難しい習慣があります。



今後は、**市民向け多文化共生講座や教室の運営をサポートするボランティアの募集**を予定しています。市民の皆さんの積極的な参加をお待ちしています！

やさしい日本語を使ってみよう！



市内在住の外国出身の方にインタビュー

アマチ・イスマイルさん（トルコ出身・市内在住21年目）

Q. 日本に初めて来た時はどうでしたか？

A. 最初に住んだのは大阪でしたが、人の多さに驚きました。当時は日本語や日本の文化が分からず、大変なこともありました。

Q. 神崎市で好きな場所は？

A. 仁比山公園や仁比山神社が好きで、よく家族と出掛けます。

Q. 市民のみなさんに、一言メッセージをお願いします。

A. 住みやすい神崎市が大好きです。一緒に、仲良く暮らしていきましょう！



トルコの世界複合遺産カッパドキア



8月の県内豪雨、

市は大丈夫だろうか……!

今回は、8月27日、28日、29日の秋雨前線(線状降水帯)の活発な活動による佐賀県内の大雨洪水災害に思うことを述べさせていただきます。

9月6日から、令和元年9月第3回神崎市議会定例会が開かれ、16人の一般質問を受けております。内6人の議員からは神崎市の災害と安全対策についての質問がありました。質疑のやり取りは『神崎市議会だより』(11月中旬発行予定)をご覧くださいだけではないかと思えます。

今回の雨は、時間雨量100mmを超える大雨となり、また総雨量はこれまでにない雨量を記録するもので、その被害の状況はテレビ、新聞報道でご存知のとおりです。



▲8月豪雨時の市内の様子

神崎市では広滝観測所で時間雨量74mm(27日18時)を記録しました。これは、平成21年7月、城原川の永歌地区内堤防が裏落ちして、野越し5ヶ所(城原川東堤防)からは越流し、しかも、平坦部での濁流水位が堤防天端から10cmを残す状況に、大変な事態を招くのではと思ったことを鮮明に思い出します。そのときの脊振(伊福地区)での時間

雨量は65mmでしたので、今回はそれを超えるものでした。しかし、城原川の水位は日出来橋で最高4.9m(氾濫危険水位:4.32m)を記録したものの、堤防天端からは1m以上を残す状況でした。これは、有明海の干潮と山降りの時間帯に恵まれたお陰だと思われれます。その後は、潮の関係と筑後川上流の雨降りで、水はけが悪くなり、平野部での冠水が多く地域で見られました。

市に報告のあった主な被害内容 (9月20日時点)

被害内容	規模
床下浸水	1戸
市管理の河川(護岸崩壊)	5ヶ所
市道(法面、路肩崩壊など)	52ヶ所
冠水による一時通行止め	13ヶ所
農地、農業用施設	154ヶ所
林道、林地	40ヶ所
農作物	573ha

今後、何時、最悪の条件下で本市が被害に遭うかもしれないかと思いつき、心配でたまりません。100mmを超える雨が北部一帯に降れば、堤防決壊がなくても野越しからの越流はあります。城原川と田手川の間南部平坦部は、最悪4mを超える浸水が想定されます。洪水では自宅での避難を呼びかけた経緯がありますが、想像を絶する降雨被害を思うとき、自宅2階でも我が身を守ることができなくなります。そのとき、すでに自宅周辺は冠水し、外に出られなくなり、救助を待つことになりませんが、自己の存在を知らせるとともに、家屋浸水からの脱出が必要になることが考えられます。

助かるのではないか」といった、斬新な提案をいただきました。皆さん一考する価値はあると思います、取り組んでみても…。

最後に、今回、武雄市、大町町からの人的支援要請により、健康管理業務、家屋被害調査、一般作業など、9月20日時点で、職員34人(延べ42人)が支援作業に従事しています。神崎市を代表しての支援作業に誇りと責任をもって努めてくれたことに感謝し、「ありがとう」を伝えたいものです。神崎市が被災するようなときに…、この労が活かされるものと思います。本当に、お疲れさま。ありがとう。

神崎市長 松本 茂幸